

第5章 用途別施設の今後の方向性

これまで見てきたような公共施設の再構築に向けた基本的な方向性やエリア別取組方針を踏まえた上で、学校施設や市営住宅などの重点的に検討すべき施設群について、今後の検討の方向性を示すとともに、再構築後の公共施設の将来イメージについて示します。

なお、以下は現在の公共施設の種別ごとにその施設が持つ機能に着目して、今後、その機能をどこに配置していくべきかという観点で記載しており、再構築後の種別とは異なる場合があります。

1 用途別施設の今後の方向性

1 学校施設

- 建替え時には地域に必要な機能を確保し、施設を複合化
- 建替え時以外においても空き教室の有効活用等により、一層地域との連携を図るなど地域コミュニティ拠点としての機能を強化
- 少子化等の影響を踏まえ、引き続き良好な教育環境の確保に向け適正に配置



2 市営住宅

- 高齢化の進展による世帯人員数の減少や、更新需要の本格化を踏まえ、総面積を抑制
- 市内民間空き家の増加傾向を踏まえ、これらの民間住宅の活用を検討
- 建替え時には、市営住宅の良好なコミュニティ形成を図るため、周辺に若者世代の居住機能や生活利便機能を誘導するほか、地下鉄駅などの拠点では、民間と連携し、余剰地等に高齢者向け居住機能などを配置



3 コミュニティ施設

- 小学校の配置と連動させるなど、コミュニティ施設の配置基準を見直す
- 区民センターは主要な地下鉄・JR駅周辺などの拠点等へ配置し、地区センターの持つ機能は、複合化等により小学校などの身近な地域へ配置



4 児童会館

- 学校施設やコミュニティ施設と複合化
- ミニ児童会館は学校施設を有効活用し、学校改築時に児童会館へ転換（1小学校区に1児童会館への転換）



5 老人福祉センター

- 交流・娯楽機能については、複合化等により小学校などの身近な地域へ配置
- 健康相談・介護予防機能については、小学校の活用や、他の施設の多目的化、民間施設との連携



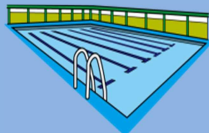
6 区体育館

- 運動・健康づくり機能については、より身近な地域で確保するため、小学校をより一層活用し、民間施設と連携
- 競技機能については、行政区により異なる人口推移や利用状況、更新需要の本格化を見据えて、現行の配置基準を見直し、利便性の高い地域交流拠点などへ配置



7 区温水プール

- 運動・健康づくり機能を確保するため、類似機能を持つ民間施設と一層連携
- 今後、行政区により異なる人口推移や利用状況、民間施設の配置状況等の地域の実情を踏まえ、現行の配置基準を見直し



8 健康づくりセンター

- 運動指導機能については、他の公共施設や民間類似施設の活用により駅周辺などの拠点へ配置
- 運動・トレーニング、運動教室の機能については、より身近な地域で確保するため、小学校をより一層活用し、民間施設と連携



9 図書館

- 貸出・返却等のサービスは身近な場所へ配置し、調べ物やレファレンス機能などの中核的な図書館機能については拠点等へ配置



10 区役所・まちづくりセンター等

- まちづくりセンター（地区会館を含む）が持つ身近な地域の活動の場や交流の場などの機能については、小学校と複合化
- 区役所等については、主要な地下鉄・JR駅周辺などの拠点等へ配置



この基本方針の理念を実現するためには、「施設維持」から「機能重視」へという考え方の下で、従来の発想を転換し、現在の公共施設の形にこだわらず、その機能に着目して再構築を進めていく必要があります。

共通する機能の統合や異なる機能の集約により、これまで異種の公共施設を利用していた多様な市民の交流が期待できます。

そこで、各施設が持つ機能に着目して再構築を進めていった場合に想定される将来の公共施設の主な機能（イメージ）を次ページのとおり示します。



小学校複合施設、体育施設、区役所複合施設、市営住宅周辺の4種類に再構築